

日本財団アール・ブリュット美術館合同企画展2014↓2015  
ひとがはじめからもっている力

「TURN／陸から海へ」

第2回東京フォーラム

# 「いま考えるTURN」

ひとがはじめからもっている力  
「TURN／陸から海へ」展の目指す  
ものを東京から発信するシリーズ  
「東京フォーラム」。

今回は「いま考えるTURN」と  
銘打って、これまでの展示会期を  
振り返るとともに、  
「TURN」について考える場を  
ひらきます。

日比野克彦

和多利浩一

西村佳哲

奥山理子（みずのき美術館＋櫛野展正（鞘の津ミュージアム）＋岡部兼芳（はじまりの美術館）＋松本志帆子（薬工ミュージアム）

平成27年4月12日（日） 13時～15時半 [12時半開場]  
渋谷ヒカリエ8/COURT  
料金…無料（事前申込み制）

主催・TURN実行委員会（みずのき美術館、鞘の津ミュージアム、はじまりの美術館、薬工ミュージアム、日本財団）  
共催・社会福祉法人松花苑、社会福祉法人創樹会、社会福祉法人安積愛育園、特定非営利活動法人ワークスみらい高知  
特別協力・渋谷ヒカリエ 監修・日比野克彦 アドバイザー・森司

日本財団アール・ブリュット美術館合同企画展 2014→2015  
ひとがはじめからもっている力  
「TURN／陸から海へ」

平成 27 年 4 月 12 日 (日) 13 時～15 時半 [12 時半開場]  
渋谷ヒカリエ 8 / COURT 料金：無料 (事前申込み制)

## 第 2 回東京フォーラム「いま考えるTURN」

障がい者支援施設を運営する法人が開設したアール・ブリュット美術館 4 館による合同企画展「TURN／陸から海へ」が開催されています。「TURN」とは、監修者日比野克彦氏が、「アール・ブリュットとは何か」ということをより普遍的に昇華させるために掲げた言葉です。「陸」という日常から「海」へと潜るようなまなざしを示し、新しい世界の可能性を「TURN」という言葉とともに問い直しています。

そんな「TURN／陸から海へ」展の目指すものを東京から発信するシリーズ「東京フォーラム」。今回は「いま考える TURN」と銘打って、これまでの展示会期を振り返るとともに、みなさんとともに「TURN」について考える場をひらきます。

### タイムスケジュール Time Schedule

※内容は変更になる場合がございます。

#### 全体ファシリテート：西村佳哲

13:00 ごあいさつ (日本財団)

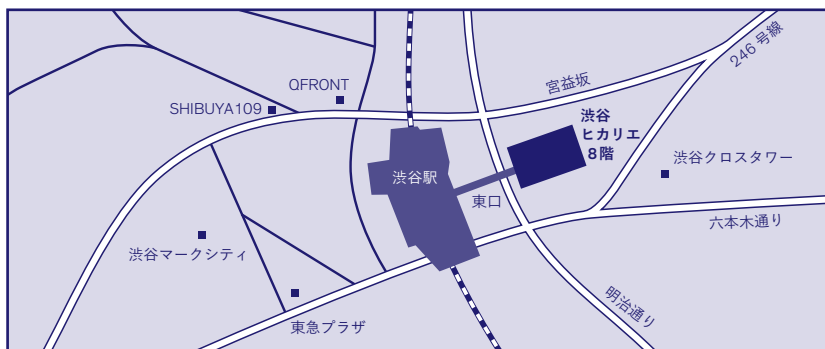
13:05 展覧会概要報告 奥山理子 (みずのき美術館)、  
榑野展正 (鞆の津ミュージアム)、岡部兼芳 (はじまりの美術館)、  
松本志帆子 (薬工ミュージアム)、長津結一郎 (TURN 展事務局)

13:20 トークセッション「ひとがはじめから持っている力って何だろう？」  
日比野克彦 (本展監修者) × 和多利浩一 (ワタリウム美術館)

14:00 ラウンドテーブル「いま考える TURN」  
※来場者みなさんでグループに分かれて「TURN」について語り合います

#### お申し込み・お問い合わせ：

お名前／ふりがな／ご所属／電話番号／メールアドレスを明記の上、件名を「第2回東京フォーラム参加申込み」として、以下のアドレス宛にお申込み下さい。artbrut@ps.nippon-foundation.or.jp  
※個人情報は、利用目的を明確にし、本人の同意を得た上で収集し、利用目的の達成に必要な範囲内で利用します。また、個人情報を第三者に提供する場合は、利用目的の達成に必要な範囲であり、かつ、本人の同意を得た後に提供します。なお、個人情報の開示、訂正等の要請があった場合に対応するため、必要な窓口を設置するとともに、適正な期間で対応します。日本財団の個人情報保護方針はこちらからご覧頂けます。http://www.nippon-foundation.or.jp/about/disclosure/privacy/index.html



#### ゲストプロフィール

##### 日比野克彦

1958 年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。80 年代に領域横断的、時代を映す作風で注目される。作品制作の他、身体を媒体に表現し、自己の可能性を追求し続ける。各地域の参加者と共同制作を行い社会で芸術が機能する仕組みを創出する。ぎふ清流国・ぎふ清流大会総合プロデューサーを務める。日本サッカー協会理事。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授。http://www.hibino.cc

##### 和多利浩一

1960 年生まれ。早稲田大学卒業。1980 年大学一年生の時、姉・恵津子と共にミュージアムショップ「オン・サンデーズ」を創立。90 年「ワタリウム美術館」の創業者の一人として参加。現代美術を中心に、建築、写真、彫刻と幅広い展示活動を行い、2003 年ヘンリー・ダーガー展、2009 年アロイズ展などのアール・ブリュット展示なども企画。92 年国際展ドクメンタ 9 で初の日本人スタッフとして働く。95 年第 1 回ヨハネスブルグ・ビエンナーレの日本代表コミッショナー。1996 年より岡本太郎現代芸術賞の審査員を歴任。地域ボランティア活動とし「原宿・神宮前まちづくり協議会」を発足させ、その初代代表幹事を務めた。  
ワタリウム美術館：http://www.watarium.co.jp/

##### 西村佳哲

1964 年東京生まれ。プランニング・ディレクター。つくる／教える／書く、三種類の仕事を手がける。代表を務める (有) リビングワールドは、情報デザインやコミュニケーション・デザインを主領域とするデザイン事務所。働き方研究者としての著書に『自分の仕事をつくる』(ちくま文庫)、『自分をいかして生きる』(バジリコ)、『自分の仕事を考える 3 日間!』『みんな、どんなふうに働いて生きてゆくのか?』(弘文堂)、『かわり方のまなび方』(筑摩書房) がある。

##### 奥山理子

みずのき美術館キュレーター。母の仕事の関係で、12 歳頃からしばしば毎日を社会福祉法人松花苑みずのきで過ごす。2007 年以降の法人主催のアートプロジェクトや、「みずのき」の農園活動にボランティアで従事した後、美術館の立ち上げに携わり、現職。

##### 榑野展正

鞆の津ミュージアムキュレーター。2000 年より、あゆみ苑成人寮にて生活支援員として働きながら、障がいのある人たちへの表現活動のサポートを開始。ここで生まれた作品は国内外で高く評価されている。2012 年より現職。社会の周縁で表現を続けている人たちに焦点を当て、企画を行う。

##### 岡部兼芳

はじまりの美術館キュレーター。福祉作業所支援員、臨時教員を経て、2003 年社会福祉法人安積愛育園入社。あさかあすなろ荘にて生活支援員として働く中で、知的に障がいのある利用者の表現活動をサポートする「ウーニコ」に携わる。2014 年より現職。

##### 松本志帆子

薬工ミュージアムキュレーター。立正大学文学部史学科 (東洋史専攻) 卒業後、「横浜トリエンナーレ 2001」のエデュケーションプログラムでのボランティア活動をきっかけにアートにはまる。2010 年より現職に就き、開館準備から携わる。

#### 渋谷ヒカリエ 8 / COURT (8 階)

〒150-8510 東京都渋谷区渋谷 2-21-1

アクセス＝東急東横線・田園都市線、東京メトロ副都心線

「渋谷駅」15 番出口直結

JR 線、東京メトロ銀座線、京王井の頭線「渋谷駅」と

2F 連絡通路で直結

みずのき美術館



鞆の津ミュージアム



はじまりの美術館

MUSEUM OF ART WARAKOH



日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

